



西川監督から贈る言葉



穴田は、阪神タイガースの畑山スカウトから連絡があり、「育成選手ですが引退となり、まだ野球に未練があるので面倒をみてもらえませんか」と連絡があり、12月2日面談、2週間後には有田に引越しと話がトントンと進んできました。

1年目の最初のOP戦で本塁打を放つなど並外れたパワーで、チームの「本塁打王」を獲得しましたが、同じように「三振王」「エラー王」も獲得していました。

2年目からは、ポジションを3塁に移すも「エラー王」の称号だけは譲らず、守備のリズムが影響したのかこの年は打撃も不振でした。原井コーチからは、「穴田はとにかく明るい、自分が不調でもお構いなしに元気を出してベンチを盛り上げてくれた、この元気がチームをクラブ日本一に導いてくれた」と賛美していました。

3年目は、打撃が好調でなにより三振が少なくなり、打で活躍も「3年連続エラー王」の称号は守り抜きました。

今年は、打撃も好調で特にクラブ西近畿の県警桃太郎戦の1点リードされた場面で、2死となって流れが向こうに傾きかけた時の同点打は流石でした。

この一本とクラブ決勝戦での激走が4回目の日本一に導いてくれました。また、今年は守備が良くなり、殿堂入りかと思われた「エラー王」も返上し、守備でも大きく貢献してくれました。

年々調子が上がり、もう少し野球を・・・と思いますが、第2の人生を選んだので、今後は持ち前の「天真爛漫」なキャラで、仕事での「エラー王」の称号は無縁にし、人生のMVPを勝ち取って下さい。

「天真爛漫」
穴田真規選手
(平成26年入部)